

フリースタイルな

平成22年4月
第5号

僧侶たちの フリーマガジン

NPO法人アユス仏教国際協力ネットワーク

茂田真澄 理事長

生きる仏教を、実践

主催&共催イベントも続々!!

5月6日(木) in 東京 茂田真澄理事長講演会&仏教トークライブ

5月22日(土) in 京都 公開法話会&仏教講座&僧侶Loveな夜

5月29日(土) in 京都 ヨガ&瞑想教室&仏教トークライブ

仲西俊光 副編集長

コラム:日本人と、妖怪と、仏教と

好評連載: Ayakaのヘルシー精進レシピ
「ピサラティエール」

Webにもアクセス!

Webサイト「フリースタイルな僧侶たち」が完全リニューアル!!
掲示板「駆け込み寺」やWeb限定のコラムなど、コンテンツが満載。
フリーマガジンの記事への評価とコメントもお待ちしています。

<http://freemonk.net>

フリースタイル 僧侶

検索



生きる仏教を、実践

NPO法人アーユスの茂田理事長に聞く



今回取材で伺ったのは、特定非営利活動法人アーユス仏教国際協力ネットワーク（以下アーユス）の、茂田真澄理事長。世界を駆け巡りながらも、自坊の東京・町田市にある勝樂寺住職として地域社会との連携などにも精力的に取り組む。

（聞き手 副編集長・仲西俊光）

アーユス設立のきっかけは？

実際にタイやカンボジア国境の難民キャンプやブータンなどの現地に行ったことが、きっかけですね。その時に「自分は坊さんとして、何もできていない…」と痛感し実践的な活動を、と。目の前で死にゆく人々や、貧困で苦しむ人々に対して、具体的な「何か」をしなければと考えたのです。

自分自身で考えて、動く。そのことで僧侶やその他の人々が協力してくれるようになり、一九九三年にアーユス設立に至りました。私たちの活動の大枠は現在、現地に足を運びながら、NGO支援事業と教育・交流事業という2つの大きな柱を中心に活動を進めています。

活動を始めた頃、

反発などは無かったですか？

「お坊さんはお寺の中でお念仏だけ唱えていればいい…」そんな考え方があったことも事実で、奇異な目で見られることもありました。ただ、それを圧力と感じたことはないですね。新しい何かをしようとすれば、反作用が起こるのは当然のことであり、自分の信

右ページ写真：
今年2月に訪れた、インドの象
の前で。現場主義を貫く

写真右：
「インドは、地域や経済格差が
激しいが、それらを危惧する声
も高い」と、茂田理事長

写真左下：
「僧侶として何をすべきか」を
常に意識していると語る

写真左下：
地域と連携し、伝統を守りなが
らも、進化を続ける勝楽寺（東
京・町田市）



既存の組織などに頼らずに、自分たちで創りあげていくという姿勢が良いと思います。若い僧侶は、いつの時代も悩むもの。しかし、既存の寺院運営システムにあぐらをかきながら、漫然と日々を過ごすのではなく、新しいことにチャレンジする中で、体験を積んでいくことは本当に重要なこと。頑張ってください。

若い僧侶と、一般の人々を 結びつける「フリスト」に一言

念を貫くことにプライオリティー（優先順位）を置いていました。
苦しんでいる人に手を差し伸べる…これは、僧侶として至極当然のことではないでしょうか。
プライオリティーを大切にしている？
その時々により、何が一番大切な事なのかを瞬時に判断するクセができましたね。自坊の話をする、檀信徒や地域の人々にオープンな寺院として、常に門を開いている。その中に、時には「死にたい」という切実な内容のものも。その際に役に立つのが、これまで培ってきた対応力。実践的な活動をしていると、体感値として自然に溜まってきます。あとは人脈。これも、動いている間に徐々に培われてきますね。例えば、悩みの内容が精神的な病の場合は医者に、法律が絡むものには弁護士など、各専門家たちと常に連携をとっています。



イベント告知!! 茂田先生による講演&第7回仏教トークライブ決定

来る5月6日、17時から(時間や内容は予定。詳しくはweb版にアップします)、東京・目黒にある大円寺にて、茂田先生のこれまでの活動や想いを語っていただきます。また、今後のお寺のあり方などについて、ざっくばらんに話し合うトークライブも予定中。ご参加お待ちしております!!

●連絡先: 仲西俊光
電話: 070-5658-4922 / メール: comsick@hotmail.com

アユスのイベント情報、告知 ～語りと音楽とトークで贈る『夜叉ヶ池その後』～

4月10日、11日と、朗読とトークのイベントが行われます。泉鏡花の『夜叉ヶ池』を原作にし、『仏教さぶかる系』でお馴染みの瀬野美佐さんが書き下ろされた『夜叉ヶ池その後』を、北原久仁香の朗読と、山田雅生の箏、そして小池純一郎の三味線でお贈りします。そして、「仏教の文学」と題したトークで、仏教のもつ面白さを味わいましょう。

●問い合わせ: アユス仏教国際協力ネットワーク
電話: 03-3820-5831 / メール: mika@ayus.org (担当、枝木さん)
●料金: 一般 前売 2300円 / 当日 2500円
ペアチケット(同一日2枚セット券)前売のみ 4000円



新しくフリスタ・リーダーズに加わった小野剛賢さん(真言宗僧侶・34才)。生まれも育ちもお寺とはゆかりのない生活だったが、人生の転機はお寺の娘さんと結婚したこと。「僕にお寺を継がせてください」と志願して28才のときに設計士から転身し、高野山に1年間こもつての修行の末、僧侶に。いまは大阪府岸和田市の薬師院の副住職として日々法務をつとめています。

「ヨガがはやつて瞑想がはやらんのはなんでやねん(笑)」と大阪弁で真言宗に対する想いを語る小野さんは、3年前からお寺を開放し、真言密教に伝わる瞑想「阿字観」の教室を実施。今年1月からは好評につき京都教室も毎月開講しています。「週末のひとときぐらい雑念を忘れて安らかな気持ちになつて欲しい」という願いからだとか。

いまのライフスタイルは、肉や魚は口にせず、お酒も一切飲まず、瞑想教室の収益もすべてチャリティとして寄付するという徹底ぶり。かつて出家前にバックパッカーとして世界を旅し、インドにも3ヶ月滞在、仏跡参拝の旅をしたこともある実践派僧侶が、今後フリスタをきつと盛り上げてくれると確信しています。

さて、そんな小野さんを迎えての第8回仏教トークライブは、フリスタ代表の池口(浄土宗僧侶)との対談でお届け。

豊富な瞑想の体系を持つ真言宗と、「南無阿弥陀仏」のみを行と説き、瞑想を実践しない浄土宗とでは、意見の一致をみないことも想定される中、仏教を愛する2人のトークライブはどのような結末を迎えるのか。

大勢のご参加をお待ちしています。



2010.5.29 in Kyoto 仏教トークライブ 8th

featuring 小野剛賢(真言宗僧侶)



瞑想とか印の結び方とか、真言宗には浄土宗が持たない教えがたくさんある
——池口龍法(浄土宗僧侶)

**あなたはどちらの宗派が
好きですか？**

浄土宗の教えって誰にでもわかりやすく伝えられる。そこがうらやましい
——小野剛賢(真言宗僧侶)

仏教トークライブ第8回

好きな宗派はどっち？
〈真言宗 vs 浄土宗〉

日時 5月29日(土) 午後4時

プログラム

■午後4時

第1部 陰陽ヨガ教室

講師 石川奈々子

■午後5時

第2部 阿字観瞑想教室

講師 小野剛賢

(阿字観は弘法大師から伝わる瞑想法で、心の静謐なる状態をイメージしていくものです。)

■午後6時

第3部 仏教トークライブ

■午後7時 終了

参加費 第1部 千円

第2部 千円

第3部 無料

(収益は布施行として国際協力のために寄付します。)

会場 スタジオ 空

京都市下京区西洞院通り
木津屋橋通り北東角 辰

巳ビル2階(JR京都駅下

車徒歩7分)

定員 30名

※動きやすい格好

又は、お着替えを

ご持参ください。



↑会場地図

フリスタ主催・共催イベントへの申し込み・問い合わせは——

フリースタイルな僧侶たち代表 池口

電話: 090-5896-6478 / メール: senrenja@gmail.com

※ Webからも申し込みが可能です。

※ 飛び込み参加も歓迎ですが、準備のためなるべく事前に申し込みください。(特にヨガ教室はスペースに限りがございます。)

ヴァイガン・アースデイに出展

5月2日に京都市左京区の岡崎公園で開催されるベジタリアンのためのイベント「ヴァイガン・アースデイ京都」に出展。小野さんは薬健法によるマッサージを担当します。

瞑想教室のスケジュールは

瞑想およびヨガ教室の最新のスケジュールは薬師院ホームページやブログからチェック!!
<http://www.eonet.ne.jp/~yakushi/>

中世より僧侶の中で医学知識を兼ね備えたものを僧医と呼び、一般民衆に医療を提供していました。
現代でも同じように、僧侶である医師が全国各地におり僧医として活動しています。その一人として、今回は現代における仏教と医療の接点のうち、在宅での看取りを中心にお話したいと思います。

「現代の僧医として」 P. M. 2:00



田中善紹

浄土宗西山禅林寺派光明院住職。田中医院院長。医学博士

光明院&フリスタ共催!! 公開法話会&仏教講座

日時 5月22日(土)
午後2時 勤行
午後2時15分 「現代の僧医として」
光明院住職 田中医院院長 田中善紹
午後3時 「お釈迦様の生涯」
博士(文学) 佐藤直実
午後4時 茶話会
参加費 1,000円(一般)
500円(フリスタ会員)
会場 光明院本堂
住所 〒604-8336 京都市中京区六角通大宮西入る
(阪急電鉄四条大宮駅下車徒歩5分/
京都市営地下鉄二条城前駅下車徒歩8分)
※申し込み・問い合わせは右ページ下部を参照のこと



そして法話会終了後…

P. M. 6:00 in ボンズクラブ

僧侶Loveな夜

杉若和尚とフリスタが出逢いのご縁作り!!
パートナー募集中のお坊さん、
お坊さんと出逢いたい人、お寺に嫁いでみたい人、
お坊さんになりたい人、尼さんになりたい人、

大募集です!!!

日時 5月22日(土) 午後6時
参加費 2,000円(一般)
1,000円(フリスタ会員)
※軽食&ドリンク料を含みます。

会場 THE BONZEくらぶ「堀北庵」
京都市北区紫野下柳町47-1
(京都市営地下鉄
北大路駅下車徒歩10分)

定員 20名
(ただし35才以下の
独身者に限ります。)

↓会場地図



写真左から、露の団姫、池口龍法、杉若恵亮

2010.5.22 in Kyoto

仏教は、インドに生まれた釈迦族の一人の王子から始まりました。その名はシッダールタ。二千六百年前に生まれたシッダールタは、29歳で出家。修行の末に、35歳でさとりを開き、「ブッダ」(目覚めた人)となります。今日では、親しみを込めて「ブッダ」よりも「お釈迦様」と呼ばれています。
さて、さとりを開いたお釈迦様は、自分の得た真理を多くの人々に伝え続けます。その真理とは、わかりやすく言うところ「幸せになる方法」です。そして、80歳の時に、なすべきことを全てなしおえ、入滅されます。
残された弟子たちは、お釈迦

様の教えを受け継ぎます。長い時間をかけて人から人へと大切に伝えられた仏教。やがてインドから世界へと広がり、それぞれの地域に溶け込んでいきます。日本に伝来したときには、すでに入滅後千年以上が経っていました。
今も仏教は世界の各地で様々なかたちで受容されています。それゆえに一口に「仏教」を語るのが難しい感もありますが、しかしそのルーツは一つ、「お釈迦様」です。
そこで、今回は、仏教の原点であるお釈迦様の一生をたどりながら、その教えを皆さんと一緒に学びたいと思います。

「お釈迦様の生涯」 P. M. 3:00

佐藤直実



博士(文学)。専門はインド・チベット仏教学。大阪大学非常勤講師

イタリアではなくてフランスのピザ。
具材は玉葱、アンチョビ、ブラックオリーブだけ。
南仏ニースの旧市街などで手軽に食べ歩きできる、いわゆるB級グルメです。
今回はアンチョビの代わりに浜納豆をオリーブオイル漬けにして使います。
浜納豆は中国の豆鼓とルーツを同じくする発酵食品。
味のアクセントになります。

Ayakaのヘルシー精進レシピ

ピザラディエール



材料(直径25cm程度のもの1枚)

ピザ生地

強力粉 250g
水 150cc
ドライイースト 小さじ1/2
塩 1つまみ
オリーブオイル 小さじ2

トッピング

玉葱 500g
浜納豆 40g
(オリーブオイル(分量外)に一晩ほど漬ける)
ブラックオリーブ 大さじ2
オリーブオイル 大さじ3



*浜納豆は浜名湖周辺名産の大豆発酵食品です。
*オリーブオイルは全てエクストラヴァージンを使用のこと。

<ピザ生地を作る>

1 小さなボウルに分量から取った強力粉を大1と、ドライイーストを全量入れ、1つまみの砂糖(分量外)とぬるま湯を大1(分量外)加えてよく混ぜる。
そのまま暖かいところに10分ほど置き、イーストを起こす。

2 ボウルに強力粉の山を作り、中央をくぼませ、端に塩を入れる。くぼみの中央に1で作ったイースト種を入れ、その上からぬるま湯の1/4を少しずつ加えていき、種や粉と混ぜる。なじんできたら、さらに1/4のぬるま湯を塩の上から加え、その周りの粉と混ぜる。

3 オリーブオイルを加え、残りのぬるま湯を3~4回に分けて粉と混ぜてまとめる。粉気がなくなったら、体重をかけてしっかりとこねていく。

生地を丸くまとめて、乾燥しないよう軽くラップをかけ、暖かい場所で生地が2倍くらいに膨らむまで1時間~2時間発酵させる。オーブンを250度に熱しておく。

<トッピングを作る>

4 玉葱は繊維に逆らって5mmほどの薄切りにする。浜納豆は手でつぶし、ブラックオリーブは手で2~3等分にする。フライパンにオリーブオイルを熱し、弱火で玉葱をじっくり炒める。塩胡椒をして、色づかない程度にくったりとするまで10分ほど炒め、冷ましておく。

<仕上げる>

5 膨らんだ生地をガス抜きしたのち、まとめて15分ほど休ませる。その生地を25cmほどの円形にする。

6 のばしたピザ台に炒めた玉葱をまんべんなく広げる。その上に浜納豆、ブラックオリーブを散らす。浜納豆を漬けていたオイルをまわしかけ、塩胡椒で味をととのえる。

7 トッピングが焦げないように注意しながら、250度に熱したオーブンで10分ほど焼く。熱いうちにサーブする。

浜納豆はこちらでお取り寄せ可能です。
そのまま白米といただいても、和洋中のお料理に調味料として使っても美味しい!
ヤマヤ醤油株式会社
〒430-0903 静岡県浜松市中区助信町15-1
電話:053-461-0808 <http://www.ymy.co.jp>

written by

Ayaka
Kreaguchi

(料理愛好家)

日本人と、妖怪と、仏教と

妖怪がブームと言われたし、それから久しいが、割とその人気は落ちずに今でも根強く残っているようだ。ちなみに、僕も妖怪は非常に好きだったりする。

調べてみると、どうやら日本人は妖怪や、怪奇的なものが結構好きである。

ね。京極夏彦氏や、鈴木光司氏らの妖怪モノは発表されて10年以上経つが今でも衰えない人気。

妖怪と聞いて何よりも先に思い出すのは、水木しげる氏の「ゲゲゲの鬼太郎」にでてくる妖怪達。小豆洗い、一つ目小僧、ザシキワラシ、天狗などといった、ひょうきんなキャラの妖怪。日本でオーソドックスな妖怪のほとんどが、水木氏に

よって描かれ、そして世間の人々に認知されているといっても過言じゃない。

では、この水木しげる氏が描いた様々な妖怪達は、元々どこから来たのだろうか。テレビのインタビューなどで「自らの創作がある」という発言もあるが、実は妖怪のほとんどは江戸時代に創られたもの。



日光東照宮にある、にやけた顔が印象的な象。狩野探幽が想像で下絵を書いたと伝えられ、当時の人のユーモラスな感性が伺える

さて、日本の妖怪史を紐解くにあたって、江戸時代は非常に重要。江戸期〜明治時代までに絵に描かれた妖怪は、その数お



大自然に囲まれた日本。離島であることから、独特の文化や思想などが育ったと思われる

よそ四百種。その中でも江戸の妖怪画家であった鳥山石燕（一七二二年生）は、一人でその半分の二百体もの妖怪画を残している。

では、鳥山石燕は一体どこから「妖怪」を考え出したのか。ここから先は、残念ながら詳しくはわからない。古代中国や天竺の妖怪達を模したり、石燕自身が創作したりしたのであると言われている。

さて、この石燕の生きた江戸時代。繰り返しになるが、水木しげる氏の描く妖怪達を代表として現在知られている妖怪のほとんどが、この時代に作られたと言えるほど繁栄した。むろん江戸時代に「妖怪」が街中を跳梁跋扈していたわけではあるまい。創作としての「妖怪」というものが非常に人気があったというのだ。

ようだ。そして、更に時代をさかのぼること：平安時代。当時の説話集「今昔物語」を紐解くと、わつさりと妖怪の話が出てくる。どうやら、日本人は「根本的」に妖怪が好きで民族のようだ。

このコラムでは今後、日本人の宗教に対する考え方などから、僕の好きな妖怪と仏教をリンクさせて、色々と私見を述べていきたいなあと思っている。

【つづく】
(副編集長・仲西俊光)



渋谷の夜景。科学が進化し続ける中で、妖怪たちもたくましく生き続けている

日蓮宗法華寺住職 **杉若恵亮 presents**

2010/4/25 (SUN) 16:00~17:30
第4回町家法話
講題「おくるひと」 / ゲスト 大隆寺執事 株橋隆真和尚

2010/4/25 (SUN) 18:30~20:00
つきいちボンさんと語ろう会 vol.242
テーマ「楽ちん人生のバランス学」

↓会場地図

料金：各1,000円
(両方参加の場合は1,500円)
会場：THE BONZEくらぶ「堀北庵」
住所：京都市北区紫野下柳町47-1
電話：075-432-8716



アーユスの背中に

仏教のあり方を思う

手に取った人の意表を突きたいとの狙いで「奇抜だね」との評価をいただいた、前回のフリスタの表紙。今号は巻頭インタビューでお世話になったアーユス国際協力ネットワーク(以下アーユス)からの提供で、NGOなどが支援している国の子供たちの写真になります。真摯に仏教を通じて社会貢献をしているアーユスさん。実は、編集長である私自身も会員です。

フリスタも仏教を社会に問う試み。貧困は日本人の心の中にあると囁かれる時代に、アーユスの背中を追いかけて、今更しく仏教のあり方を見つめ直していきたいと考えています。頼もしいリーダーズも着実に増え、多角的な展開が望めるようになってきたフリスタ。寺院運営の先行きが危ぶまれる社会情勢も、むしろプラスに変えていきます。



1人でも決行!!

深夜の比叡山詣で

ところで、新しくリーダーズに加わった中島浩彰さん(浄土真宗僧侶)は、去る3月17日(水)深夜から翌朝にかけて、親鸞聖人の足跡を訪ねて六角堂(京都市内)から比叡山への登嶺を企画、実行。往復でおよそ28キロの行程を12時間かけて踏破しました。

参加希望者がなかったとしても、「1人でも決行する」との熱意に、校了間際だったにもかかわらず、私も参加。結局、わずか3名での巡礼の旅でしたが、自由な発想でチャレンジする精神はまさに「フリースタイル」。この感覚を大事にやつていきます。

最後に御礼。この野心的な試みを温かく迎えてくれた比叡山の皆様、感謝しています。

フリスタ・クラブ会員募集中!!

私たちの活動に共感し、応援して下さいる人を大募集中!! 「サポーターズ・クラブ」と「リーダーズ・クラブ」があります。

■フリスタ・サポーターズ・クラブ

対象者 フリスタを応援していただける方

協賛年会費 5千円

※ フリスタ・サポーターズの皆様には、年間6回発行予定の本誌をお届けします。また、フリスタ主催の各種イベントにおいて、優待いたします。

■フリスタ・リーダーズ・クラブ

対象者 仏教に関しての資格や知識を持ち、フリスタの指導者として活動していただける方

協賛年会費 1万円

※ フリスタ・リーダーズの皆様は、フリスタの指導者として、各種活動に参加していただけます。また、フリスタ・サポーターズ同様のサービスも含まれています。

お申し込み、お問い合わせは、フリースタイルな僧侶たち編集部(電話番号などは下記)まで。ホームページからもお申し込みいただけます。

協賛のご報告

本誌発行にあたり、以下の皆様よりご協賛をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

- 安心院
 - (京都府八幡市・浄土宗)
 - 安楽寺
 - (京都府南丹市・浄土宗)
 - 教伝寺
 - (京都府船井郡・浄土宗)
 - 九品寺
 - (京都府京都市南区・浄土宗)
 - 西明寺
 - (兵庫県尼崎市・浄土宗)
 - 浄観寺
 - (滋賀県甲賀市・浄土宗)
 - 大圓寺
 - (東京都目黒区・天台宗)
 - 臺鏡寺
 - (大阪府枚方市・浄土宗)
 - 檀王法林寺
 - (京都府京都市左京区・浄土宗)
 - 念佛寺
 - (三重県伊賀市・浄土宗)
 - 法善寺
 - (大阪府大阪市・浄土宗)
 - 法然院
 - (京都府京都市左京区)
 - 薬師院
 - (大阪府岸和田市・真言宗)
- ※ 五十音順に表示しています。
※ 協賛は随時受け付けています。

フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジン

平成22年4月1日発行 第5号
発行元 フリースタイルな僧侶たち 編集部
〒661-0982 尼崎市食満6-11-15
Tel.090-5896-6478(池口) / 070-5658-4922(仲西)
info@freemonk.net
http://freemonk.net

※ 本誌のコンテンツを無断で転載することを固く禁じます。

題字
写真提供

DTP&デザイン
ライティング・
ディレクション
企画・制作・編集
総指揮

しらかきなべお
特定非営利活動法人
アーユス国際協力ネットワーク
池口龍法 松下弓月
仲西俊光
池口龍法 仲西俊光
池口龍法